

2019年9月30日

BMW技術協会会員及び関係者各位

第5回アジアBMW技術交流会の開催について

一般社団法人BMW技術協会

理事長 伊藤幸蔵

第5回アジアBMW技術交流会実行委員会

実行委員長 生田喜和

初秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

2019年11月22日及び23日に開催を予定しておりました「第5回アジアBMW技術交流会」が、下記の理由をもって、誠に勝手ながら開催を見送らせていただくこととなりました。ご参加を申込みいただいた皆様には大変なご迷惑をおかけする事となり、大変申し訳ございません。何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

9月27日（金）におこなわれたBMW技術協会常任理事会において、日本の豚コレラの発生、BMW技術協会が関係する韓国、中国でのアフリカ豚コレラの発生を受け、BMW技術協会と匠集団そらとしての対応、方針の策定に向けて協議をおこないました。

その中で、第5回アジアBMW技術交流会の開催実現に向け、開催国のフィリピン及び関係国と参加者へのありとあらゆる配慮を検討しながら深く議論をおこないました。

9月27日現在、第5回アジアBMW技術交流会（第29回BMW技術全国交流会）へは、日本から57名、韓国から6名、中国から1名、インドネシアから3名、そして開催国フィリピンからは、ネグロス島以外の地域からを含み約80名、総勢約150名が参加を予定していました。

しかし、開催国のフィリピン、BMW技術協会関係国の中国、韓国では、ワクチンなどの予防対応策がないアフリカ豚コレラが発生してしまい、日本においても豚コレラの発生が治まっておらず、発生箇所は拡大しています。

また、フィリピンでアフリカ豚コレラが発生したルソン島のブラカン州とリサール州は、首都マニラに隣接する地域であり、マニラは世界各国を行き来する多くの人々が行き交う都市でもあります。交流会の開催にあたり、海外（フィリピン以外）及びフィリピン・ルソン島からの参加者の皆さんはマニラを通過します。多勢の仲間が一堂に移動し、行き来をすることはウィルスを持ち込んでしまう、持ち帰ってしまうというリスクが高くなることが考えられます。

フィリピンでは多くの人々が庭先養豚をおこなっており、人々にとって生活の大切な糧となっており、切っても切り離せない文化とも言えます。11月22日にフィールドワークを予定していたカネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KF-R C）は、母豚約30頭の養豚を主体とした経営であり、研修生は養豚を軸にした有畜複合農業を学び、卒業後は自分たちの地域で実践をしています。

交流会の参加を楽しみにしていたKF-R Cの卒業生達も、養豚で生計を立て始めており、中にはやっと軌道に乗ってきた若き担い手もいます。

アジアBMW技術交流会は農家（生産者）を中心とした技術交流会です。このような状況の中で、お互いの生業、そして生活に最大限の配慮をするということが重要と考え、本当に残念で仕方がありませんが、今回の開催を見送ることにし、事態が鎮静化した際には、フィリピンでの「アジアBMW技術交流会」を実現したい所存であります。

なお、第5回アジアBMW技術交流会と共催を予定しておりました、「第29回BMW技術全国交流会」につきましては、2020年3月に開催を予定しておりました「第20回BMW技術基礎セミナー」と、例年のBMW技術全国交流会としては規模を縮小した形になりますが、共催することで検討を進めていきます。

参加を予定されていた方、開催に向けて準備に関わってきていただいた関係者の皆さまには、ご迷惑をおかけすることになり、誠に申し訳ありません。

この事態をご理解いただきまして、何卒、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

以上